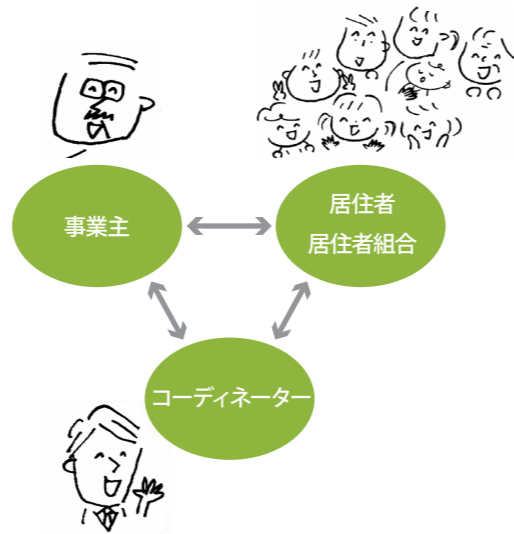


3 一般的な賃貸住宅と「コレクティブハウス」の違い

居住者・事業主・コーディネーターの三者で支えるパートナーシップ事業

コレクティブハウス事業は、事業主だけが事業のリスクを負うのではなく、この住まいの居住者と、暮らしの仕組みを持続させる支援をする専門家（コーディネーター）の三者が、お互いの役割と責任を持って行う「パートナーシップ型賃貸事業」です。

- **事業主**は、自立的で良質な住まい手がいることを前提に、話し合いながら住まい手に望まれる賃貸住宅を供給します。
- **住まい手**は、お客さんではなく、暮らしの主体者として建物の日常的な維持管理をします。居住者で組合をつくり、問題を解決したり協力して支えあい、地域ともつながりをつくり、事業主にとっては頼もしいパートナーとなります。
- **コーディネーター**は、事業主と居住者との関係や、居住者による共同運営、コレクティブハウス事業そのものを持続可能なものとしていくために、居住者募集など様々な側面から事業の支援を行います。



4 京都府の取り組みについて

- 京都府では、「子育て環境日本一」の実現を目指し、子育て家庭の皆さんにとって快適な住まい方の選択肢のひとつとして、ゆるやかであたたかなつながりを築いていく「コレクティブハウス」の普及・啓発に取り組んでいます。
- 様々な情報発信を通じて、入居前の疑問解消や入居後も支え合う暮らしを持続させるための場づくりのノウハウ提供等によって居住者を支援します。



京都府HP>
京都版コレクティブ
ハウスの推進



◆既存コレクティブハウスの事例を知りたい方は、特定非営利活動法人コレクティブハウジング社HP www.chc.or.jp をご覧ください。



◆コレクティブハウスについて興味をお持ちの方は、下記の連絡先にお問い合わせください。

発行/京都府健康福祉部子ども・青少年総合対策室 〒602-8570 京都市上京区下立売通新町西入菰ノ内町
☎ 075-451-4581 ✉ kodomo@pref.kyoto.lg.jp
企画・制作/ときどき家族プロジェクト 監修/特定非営利活動法人コレクティブハウジング社

新しい共生賃貸住宅 コレクティブハウス コレクティブな暮らしかたのガイド

一人っ子にも兄弟がほしいね

年上の人から「お兄さん」呼ばれて嬉しいね

異なる価値観が化学反応を起こす楽しさ!

ハウス内だけでなく地域の知り合いも増えてうれしい

自分が不在でもみんながいるから家族が孤立しない

モノ・設備・空間の共有で、自分の荷物も最小限!

毎日誰かと会話がある

自分とは別の世帯の人の入居しは嫌わねえ

あんなに早く帰って帰って温かいご飯があるの嬉しい

親の介護が終わる、自分の老後を想像して人との関わりがほしい

親一人の時も信頼できる隣人がいて安心

ほどうい距離感の人間関係がいいね

顔の見える人がつくってくれたご飯はおいしい

気兼ねなく子どもを預かってもらえる関係がうれしい

子育てしやすい安心・安全な住まい「コレクティブハウス」のすすめ

「コレクティブハウス」は、1970年ごろから北欧で始まった暮らし方です。女性の社会進出や自立に伴い、子育てを助け合ったり、家事の一部を共同で行うことなどによって、孤立せず安心できる暮らしを作り出そうと始まったものです。現在、世界的には、欧米諸国を中心にひとつの居住スタイルとして定着しています。

日本でも少子高齢化やシングル化が進む中、暮らしの孤立や、育児や介護などを含むさまざまな家事労働の孤立を解決していく方法が求められています。そのような社会の要請を背景に、空間と暮らしの仕組みによって、多様な人が関わり合い、助け合いの関係を生み出せる住まいとして、コレクティブハウスへの関心が高まっています。

コレクティブハウスとは？

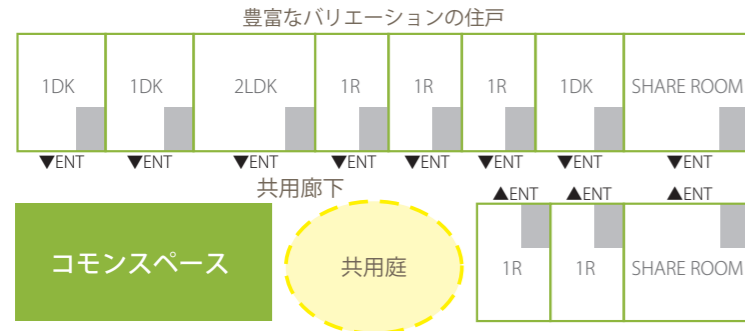
コレクティブハウス（Collective House）とは、暮らしに欠かせないさまざまな家事を居住者が共同で行ったり、居住者同士で助け合ったりすることで、子育てや、介護や、一人暮らしの孤立をなくす住まい方です。



1 建物と暮らしのしくみ

独立した住戸+コモンスペース

- キッチン・バス・トイレなどの設備が揃った専有住戸に加え、コモンスペース（共用空間）や共用設備を備えています。コモンスペースは他の居住者と一緒に使うほか、一人でも自由に使えます。
- ハウスの立ち上げ時に「居住者組合」をつくり、生活の一部を共同運営します。それによって孤立せずお互いの尊厳を大切にしたい信頼関係をつくり、持続的なコミュニティを築きます。



【空間の必要条件】

- 多様な人の住まいとして、また、ライフステージや生活状況の変化によって住み替えができるように、住戸プランにはできるだけ広さや間取りのバリエーションが用意されています。
- コモンスペースとしてどのような空間や設備が用意されているかは、建物や敷地の規模や、居住者が選択する暮らしの共同化や運営の仕方によって異なります。

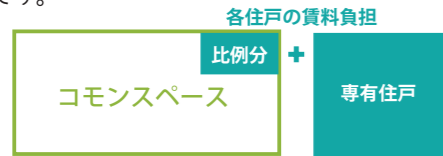
典型的なコモンスペースの例

- ①共用キッチンやダイニング（コモンキッチン、コモンダイニング）
 - ②共用の居間（コモンリビング）
 - ③洗濯室（ランドリールーム）
 - ④子どもの遊び場
 - ⑤ゲストルーム
- その他、配慮すべき空間計画
- ⑥共用廊下などの動線と環境
 - ⑦庭やテラスなどの屋外共用スペース
 - ⑧共用倉庫

賃料等費用の仕組み

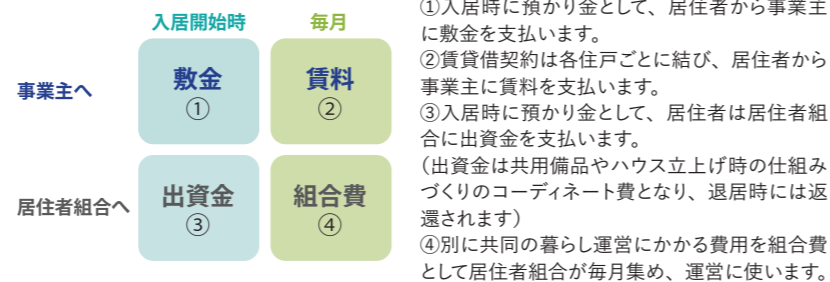
【コモンスペースの家賃分担】

- コモンスペースは、住戸面積に比例した面積を供出して生み出し、居住者が家賃を出し合って賃借します。
- 住戸内に何もかもを持ち込むのではなく、たとえば洗濯機や掃除道具のように共用できるモノは共有し、専有部をコンパクトにした分を出し合ってコモンスペースを生み出すという考え方です。



【居住者組合への出資金と組合費の負担】

- コレクティブハウス事業では、居住希望者はあらかじめ他の居住者と面談を行い、納得の上で入居ができます。これによって入居時の連帯保証を居住者組合で行っています。



シェアハウスやコーポラティブハウスとの違い

特徴	コレクティブハウス	シェアハウス	コーポラティブハウス
居住空間	独立住戸(水廻り専有)+共用空間	独立部屋+水廻り共有	独立住戸(共用空間)
形態	賃貸	賃貸	分譲
つくり方	参加型	—	参加型
運営主体	居住者組合	運営業者	管理組合
暮らし方	家事の一部共同化	—	—
その他	多世代が基本	一般的に若者向け	—

シェアハウスとコレクティブハウスの最大の違いとは、住まいの空間がシェアハウスの場合は水廻りを共用した「部屋」であるが、コレクティブハウスはトイレやお風呂、台所などの設備を付帯した「住戸」であること

自分たちで暮らしをつくるということ

コレクティブ居住者は、居住者組合をつかって自立的に暮らしを共同運営していきます。またコレクティブハウスにはコーディネーターが付き、よりよい住まい環境と人間関係を維持していけるよう、サポートを行います。



2 コレクティブな暮らしのなかでやっていること

居住者主体の「暮らしの共同運営」

コレクティブハウスでは、一人一人の居住者が快適に暮らせるように居住者全員で暮らしの共同運営をしています。そのため、住んでいる人の顔ぶれやその時の状況に合わせてやり方を変えていくことができ、コミュニティが持続していきます。

コモンミール (共同の食事運営)

- 居住者が交代で食事づくりを担当します。
- 月に一度当番を担当すると、ほかの日はほかの人がつくってくれた食事を食べられます。
- 食べる食べないは個人の自由。食べたい人は予約します。



菜園やガーデニング

- どのハウスでも、暮らしの中でできる範囲で緑に親しんでいます。
- 自分一人ではできないことも大勢でやればできたりも。場合によって専門家の知恵を借りて。
- 野菜やハーブ、果実など、自分たちが育てたものが食卓を彩ることがあるのも暮らしの楽しみ。



話し合って 折り合いをつける

- 共に暮らすこと、共同運営に関すること、さまざまなことについて話し合って折り合いをつけていきます。
- 毎月の定例会、役割に応じた少人数でのミーティング。
- 決めるための会議だけでなく、みんなで考え合うワークショップも。



自分たちで ルールを決める

- 快適な暮らしは、自分たちでコントロールするもの。
- 必要なルールは自分たちで決めます。
- 状況や暮らしているメンバーに応じて、暮らしのルールも変わります。

経済を共に支える

- 共有の家具や備品を買う費用、共有スペースの水道光熱費、ガーデニング資材・・・暮らしの運営にかかるお金は、みんなで検討し、出し合います。
- ある程度の期間にわたって一定の質を求めてリサイクルショップで揃えて費用を抑えたり。

掃除やメンテナンス

- 日常の暮らしの空間として、共有スペースの掃除や簡単なメンテナンスは住まい手が行っています。
- 快適な暮らしを送れるよう暮らしの環境を自分たちで維持します。
- 規模の大きなハウスでは一部を外部委託したりしていますが、委託するかどうかを決めるのも自分たちです。



楽しみやつながりを 生み出す

- せっかく一緒に暮らしているので、楽しいこともやっています。
- 参加したい人だけ参加するお花見やBBQ、ちょっとした飲み会もあれば、ハウス全体で取り組む〇周年パーティのようなイベントも。
- ハウスの中では日々の暮らしを通じた関係性がつむがれていますが、ハウスの外の近隣の人たちとつながる試みもさまざま行っています。

